

令和7年度 児童発達支援 自己評価表結果（職員向け）【のびっこハウス】

令和8年2月現在

■環境・体制整備

No.	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ
1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	69%	31%	—
2	職員の配置数は適切であるか	100%	—	—
3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	85%	15%	—
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	85%	15%	—

▶ 工夫している点・課題や改善すべき点

2	障害特性が違い、成長も個々に違うため、職員配置は加配しています。
3	障害特性に応じ、構造化し、視覚、聴覚の他、五感での情報伝達に配慮しています。
4	感染症マニュアルや安全マニュアルをもとに、清潔を保ち、心地よく活動できるようにしています。

■業務改善

No.	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ
5	業務改善を進めるためにP D C Aサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	100%	—	—
6	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	100%	—	—
7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	100%	—	—
8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	31%	46%	23%
9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%	—	—

▶ 工夫している点・課題や改善すべき点

5	業務についての振り返りは定期的な会議が必要な時にしています。特にヒヤリハット等があった時には広く職員が参画し、業務の向上に努めています。
6	のびっこハウス内や、ホームページに公表しています。また、毎年少しずつ業務改善をしています。
7	のびっこハウス内や、ホームページ等に公表しています。
8	今後、理事会他の第三者による外部評価を行っていきたいと思います。
9	全職員が法廷研修をしています。また、今年は他事業所さんと事例検討会を行いました。外部研修は、随時、各自が機会を設けています。

■適切な支援の提供（計画・プログラム）

No.	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ
10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	100%	—	—
11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	100%	—	—
12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び意向支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	100%	—	—
13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	100%	—	—
14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%	—	—
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%	—	—
16	子どもの状況に応じて、個別計画と集団行動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	100%	—	—

▶ 工夫している点・課題や改善すべき点

10	児発管が個別面談、モニタリングを定期的に行い、ニーズをくみ取り、課題、目標を定め、児童発達支援計画を作成しています。
11	必ず新年度に標準化されたツールにて、アセスメントをし適応行動の状況を把握しています。
12	児発管がご家族のニーズを汲み取り、担当者会議、個別面談、または事業所内相談援助の中で、支援の検討をして、本人、家族、地域支援の中で必要な項目を設定して支援をしています。
13	定期的な会議などで職員一同で支援を検討、共有しながら、計画に沿った支援をしています。
14	のびっこハウスの行事はのびっこハウスの職員で立案、また施設合同の行事は、同じ施設内の高齢者デイや生活介護の職員と立案しています。
15	のびっこ療育マニュアルをもとにして、個別や集団、季節の行事、施設内、近隣、定型発達との交流など、様々な人との触れ合いを多くする工夫をしています。
16	集団の姿をモデルにしながら基本的な生活習慣や、ルールや人との関わりを学べるように児童発達支援計画を作成しています。

■適切な支援の提供（実施・記録）

No.	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	85%	15%	—
18	支援開始後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	100%	—	—
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%	—	—
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	100%	—	—

▶ 工夫している点・課題や改善すべき点

17	前日、正規の職員で打ち合わせをしたり、職員の連絡ノートで情報を共有しています。当日は朝の集会で子どもたちの体調他、保育計画や役割などの確認をしています。
18	支援開始前後に打ち合わせや振り返りをしています。また、職員の連絡帳で大事なことを情報共有しています。
19	支援計画の目標ごとに毎日記録をとり、定期的、または変化の合った時に検証し、改善しています。
20	定期的に、また成長の変化の合った時に担当職員でモニタリング、または原案会議をして新たな支援計画を作成しています。

■ 関係機関や保護者との連携

No.	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	100%	—	—
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	100%	—	—
23	(医療的ケアの必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	—	—	—
24	(医療的ケアの必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関と連絡体制を整えているか	—	—	—
25	移行支援として、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	100%	—	—
26	移行支援として、小学校や特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	100%	—	—
27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	100%	—	—
28	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	92%	8%	—
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	100%	—	—
30	日頃から子どもの状況を保護者に伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%	—	—
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	100%	—	—

▶ 工夫している点・課題や改善すべき点	
21	児童発達支援管理責任者が参画しています。
22	モニタリング時期、または必要な時に保健所、役所、病院、保育園など連携機関と情報交換し助言をいただいています。
23	のびこハウスは多機能型で、現在、居宅訪問型児童発達支援もしていますが、医療、福祉、教育機関などの連携機関と繋がり支援を行っています。
24	居宅訪問型児童発達支援では医療機関、主治医と連絡体制をとり助言等をいただいています。
25	移行時期には親御さんの承諾を得てから、保育園、幼稚園等、支援等の情報共有をして相互理解を図っています。
26	移行時期には親御さんの承諾を得てから、特別支援学校(幼児部)等の支援等の情報共有をして相互理解を図っています。
27	併用している児童については常に関係機関と連携をとり、助言をいただいています。また、実習等も含め、研修も行っています。
28	主に近隣の公園や公共施設、地域のお祭りなどで障害のない子ども達と活動する機会があります。また、令和7年度は地域の子ども園との交流機会をつくりました。
29	自立支援協議会の子ども部会、子育て支援会議などは児童発達支援管理責任者が積極的に参加しています。
30	送迎時や保護者との連絡帳、また定期的な面談時、または必要な時に発達状況の課題について共通理解に努めています。
31	随時相談や面談時に個別に支援しています。また、保護者会の時に勉強会を行っております。

■保護者への説明責任等

No.	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%	—	—
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	100%	—	—
34	定期的に、保護者から子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%	—	—
35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	100%	—	—
36	子どもの保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%	—	—
37	定期的に会報等を発行し、活動内容や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%	—	—
38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	100%	—	—
39	障害のある子どもや保護者との意志の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%	—	—
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	100%	—	—

▶工夫している点・課題や改善すべき点

32	契約時、または更新時、利用者負担が変更した時などに説明させていただいています。
33	個別面談や担当者会議にて、支援内容の説明を行い、保護者に同意を得ています。
34	定期的に、また相談がある時に随時、助言を行って支援をしています。
35	令和7年度も親子遠足や参観など開催しました。父母同士の交流の場が好評でした。
36	迅速に適切に対応させていただいています。
37	活き生きネットワーク全体で定期的に会報を発信しています。また、お便りやインスタなどで活動内容について情報発信しています。
38	取り扱いには注意しています。会議などで情報を用いる場合は保護者の同意をいただいています。特に、外部からの訪問者などがある場合は個人情報が漏れないように注意をしています。
39	視覚支援を行って分かりやすい言葉を用いて伝達するように配慮しています。
40	法人全体の交流会を季節ごと行ったり、事業所のバザーなどで交流をしています。また、随時、学生の実習やボランティアの受け入れを行っています。

■非常時等の対応

No.	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ
41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	100%	—	—
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%	—	—
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	100%	—	—
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	100%	—	—
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%	—	—
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%	—	—
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	100%	—	—

▶工夫している点・課題や改善すべき点

41	事業所において緊急、防犯、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者にも書面においても周知させていただいています。
42	喜楽庭施設合同の防災訓練を、年二回必ず行っています。のびっこハウスでも毎月一回様々な場面を想定して行っています。
43	対象児は親御さんと連携し、服薬や予防接種、癲癇の時の対応について確認しています。
44	現在、対象となる児童がいませんが、いる場合は医師の指示書を頂き対応をします。
45	ヒヤリハット事例集を作成しています。それにより、職員の動き、また物的、人的な環境などの問題が見えてくるので引き続き職員全体で共有していきます。
46	各職員が、研修に参加する機会を設け、事例を用いて検討したり、標準化された虐待防止チェックリストを使用しています。
47	現在は対象児童がいませんが、対象児がいた場合の説明は契約時に必ずしています。身体拘束については組織的に決定し、事前の説明をした上で児童発達支援計画に記載します。